

活動の記録

■ 3月6日 ■
岐阜県総合医療センターに新設された
「小児医療センター」竣工式



■ 4月6日 ■
地元のコミュニティバス
本格運行出発式に出席



■ 5月8日 ■
岐阜市北消防団特別点検に出席



■ 6月28日 ■
ドローンを活用した測量技術を視察



■ 8月8日 ■
御嵩-八百津をつなぐ伊岐津志トンネルの
工事現場を視察



■ 8月23日 ■
岐阜就農応援隊結団式に出席



関ヶ原合戦広域ガイドマップができました

県と関ヶ原町では多くの歴史ファンや観光客を呼び込み、地域の活性化につなげるため、関ヶ原合戦420周年などの節目を迎える2020年に向け、関ヶ原古戦場の整備を進めています。

「関ヶ原合戦の舞台は、関ヶ原だけじゃない」この度県は、関ヶ原合戦を語る上で欠かすことのできない、東西両軍の主力が激突した岐阜・西美濃地域の史跡等を紹介する「関ヶ原合戦広域ガイドマップ」を作成しました。

決戦の舞台となった関ヶ原はもちろん、前哨戦となった「岐阜城攻防戦」や「杭瀬川の戦い」等の史跡もあわせて巡ることで、より深く関ヶ原合戦を体感するためのガイドブックです。

関係市町村の役所や役場、県内観光案内窓口などで配布しています。



岐阜県議会定例会で代表質問

がん患者への就労支援について(3月定例会)



- がんは国民の2人に1人が経験する病気であり、医療の進歩で生存率が高まり、がんを患っても、治療を受けながら働き続けられる人は着実に増えている。
- 国は「がんになっても安心して働き暮らせる社会の構築を目指す」ことを目標に掲げ、ハローワークに専門相談員を配置し、がん診療連携拠点病院等と連携したがん患者等に対する就職支援モデル事業を実施し、全国展開を推進している。
- 本県においても、第2次岐阜県がん対策推進計画の中で、がん診療連携拠点病院内のがん相談支援センターの内容の充実等が明記されている。
- がん患者の方が仕事と治療を両立できるよう、支援体制を強化していただきたい。

答弁)健康福祉部長(要旨)

- 岐阜大学医学部附属病院をはじめ3カ所のがん診療連携拠点病院に、社会保険労務士による雇用保険、再就職などに関する相談窓口を設けているが、まだまだ患者の方に認知されていないため、主治医から相談窓口を患者に紹介し、治療の初期段階から就労支援につながるよう働きかけるとともに、残り4カ所の拠点病院にも相談窓口を開設するよう要請していく。
- また4月からハローワークとの連携により、新たに拠点病院での就労相談会や事業主の理解を求めるセミナーを開催するとともに、シンチャレ等関係機関によるがん患者の就業支援のための連絡協議会を設置する。
- さらに民間企業とともに、がん患者の離職を防ぐための環境整備に何が必要か、協議して進めていく。



アトピー性皮膚炎、花粉症、食物アレルギーなどアレルギー疾患対策について(6月定例会)

- アレルギー疾患には、気管支ぜん息や花粉症、アトピー性皮膚炎などがあり、今や国民の約半数がかかっているといわれる“国民病”である。
- 昨年12月、アレルギー疾患対策を総合的に推進する「アレルギー疾患対策基本法」が施行され、国や地方自治体、医療・学校関係者などの責務を明確にし、総合的な施策による生活環境の改善や、全国どこでも適切な医療を受けられる体制づくりが推進される。
- アレルギー疾患は患者にとっては深刻な悩みであり、その症状も様々であることから、個々の症状に合った正しい知識と適切な治療が行われることが望まれる。
- 県は今後どのように取り組むのか。



答弁)健康福祉部次長(医療・保健担当)要旨

- 「アレルギー疾患対策基本法」の施行を受け、国は総合的な推進を図るための基本方針を示す予定である。
- 基本法では、「都道府県は対策の推進に関する計画を策定できる」としていることから、国の基本方針を踏まえて、岐阜県におけるアレルギー疾患対策の諸課題への対応を含む推進計画の策定に向けた準備を進めていく。